

# 農林水産大臣賞受賞

この町に住み続けるために今私たちができること  
～4世代が幸せに暮らせる町にしたい～

受賞者 **NPO法人かわね来風**

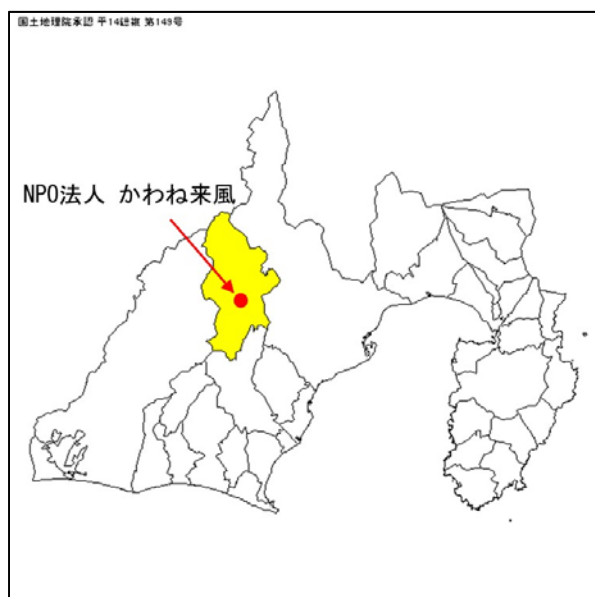
はいばらぐんかわねほんちょう  
(静岡県榛原郡川根本町)

## ■ 地域の沿革と概要

静岡県榛原郡川根本町は、平成17年に本川根町と中川根町が合併した町であり、大井川の上流部に位置し、町域の94%が森林という山間地である。

町の全域は南アルプスユネスコエコパークに含まれており、ブナ原生林やアカヤシオ・シロヤシオ群落等の美しい自然に加え、寸又峡温泉・接阻峡温泉を始めとする温泉、大井川鐵道のSLやアプト式鐵道といった観光資源がある地域である。

第1図 位置図



## ■ むらづくりの概要

### 1. 地区の特色

全国的に知られる川根茶の産地であり、生産された茶は各種品評会等で数多くの賞を受賞している。農業生産額のほとんどを茶が占めるが、中山間地域の条件不利地であるとともに、茶価の低迷に伴い、生産者の高齢化や農業人口の減少が著しく、年少人口・生産年齢人口・老年人口の全てで減少しているとともに、転出超過の状態が続いている。しかし、人口減少・少子高齢化の中にあっても、要介護高齢者が比較的少なく、町としても生涯現役社会を目指している。

第1表 地区の概要

事項	内容
地区の規模	新市町村単位の集団等
地区の性格	機能的な集団等
農家率 (内訳)	30.9%
	総世帯数 2,957戸
	総農家数 915戸
専業別農家数 (内訳)	専業農家 120戸
	1種兼業農家 61戸
	2種兼業農家 248戸
農用地の状況 (内訳)	総土地面積 49,672ha
	耕地面積 638ha
	田 12ha
	畑 626ha
	耕地率 1.3%
	農家一戸当たり耕地面積 0.7ha

注：市全体の数値（H27年）  
専業別農家数は販売農家の内数のため、総農家数と一致しない

## 2. むらづくりの基本的特徴

### (1) むらづくりの動機、背景

川根本町では、高齢化、少子化、人口減少が著しいことが住民の間でも実感されていた。また町内の集落は山間に分散していることから、川根本町の地域コミュニティが機能しなくなるとの懸念が高まっていた。このような状況において、「皆がこの町で暮らし続けていくために何かすべき」との思いのあるメンバーによって、平成20年より任意団体「かわね来風」として活動が始まり、当初より継続的なまちづくりの活動を行うためには仕事としてまちづくりを行うことが必要と考え、同年11月にNPO法人として本格的に活動を始めた。

以来、かわね来風は、「この町に住み続けるために今私たちができること」を合言葉に、農業を中心にして元気に長生きできる町を目指し、あらゆる取組みを組み合わせる総合的に暮らしの環境づくりに取り組んでいる。

### (2) むらづくりの推進体制

#### ア 推進体制

「NPO法人かわね来風」（以下「法人」という。）は16人で構成し、うち4名が専任職員として法人の活動を行っている。

法人が行う各種活動には専任職員が担当し、その事業ごとにスタッフを配置、全体で約50名を雇用している。

法人として赤字を出さない経営を実現するだけでなく、事務局を中心に事業を組立て、短期間で事業が自走することを見据えて事業化を進めており、「納税は最大のまちづくり」の考えのもと経済的にも自立を図っている。

#### イ 主な活動内容

現在、法人は定款に基づき各種事業を実施するとともに関連する地域の協議会の事務、関係団体との連絡調整を行っている。

その活動は多岐にわたるが、①農産物の出荷代行・ブランド化（川根農産物直送便）、②特産品の販売、女性活躍の場の提供（食と遊びの三ツ星村）、③農業体験・農家民宿の支援（グリーンツーリズムの推進）、④植林・間伐体験等（森づくり事業の実施）、⑤幼児子育て母親による高齢者への生活支援（ママ宅事業の実施）、⑥その他連携・生活支援事業を実施している。

#### ウ 連携する他の組織、関係団体との連携

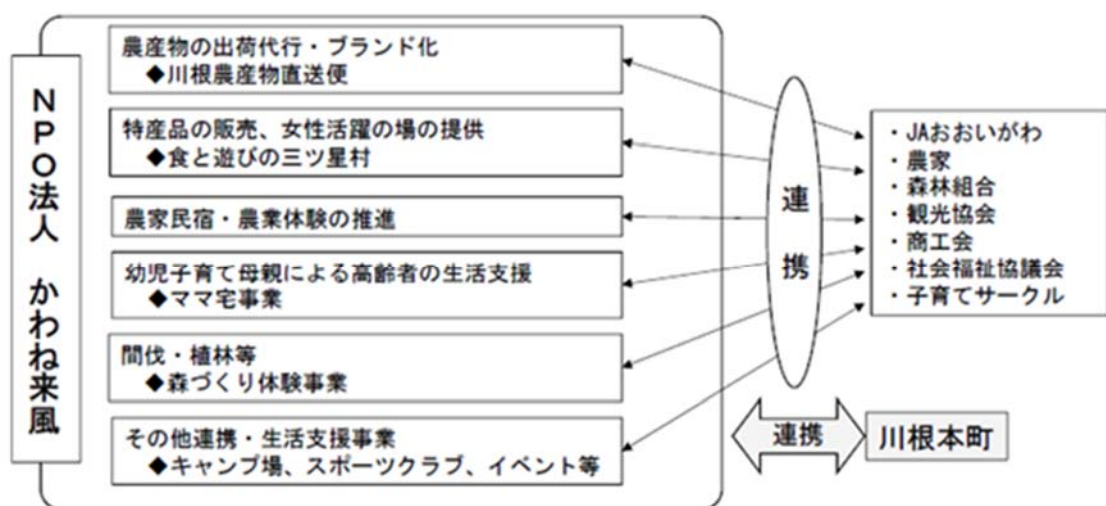
法人の活動は多岐にわたることから、川根本町との連携はもちろんであるが、農産物の出荷代行・ブランド化に関連しては、「JAおおいがわ」等とも連携、特産品の販売、女性活躍の場に関して

は「ふじのくに川根本町ゆず協同組合」とも連携、農業体験・農家民宿の推進では、「川根本町まちづくり観光協会」、農家民宿等とも連携し活動している。

また、植林・間伐体験等では、東京の「NPO法人地球と未来の環境基金」からのイベント開催の委託を受け、実施に際しては「森林組合おおいがわ」等と連携し活動している。

さらに、未就学児養育中の母親による高齢者への生活支援等では、法人自らが事務局となっている「川根本町高齢者宅配サービス推進協議会」のほか、「川根本町商工会」、「子育てサークルスマイル」等とも連携し活動している。

第2図 むらづくり推進体制図



## ■ むらづくりの特色と優秀性

### 1. むらづくりの性格

農山村地域に暮らしていく上で必要な産業や交流・福祉分野において、農産物販路の確保、交流拠点を通じたグリーン・ツーリズムの展開、未就学児養育中の母親による単身高齢者への食事の宅配などのアイデアを事業化し、都市農村交流、地域経済の活性化のみならず農村での女性の活躍や高齢者対策などの定住環境の改善に貢献している。

### 2. 農業生産面における特徴

#### (1) 流通体制づくりやファンづくりによる、農業者が本業に集中できる環境整備

NPO法人かわね来風は、川根本町で農業者が農業を続けていくことができるように周辺を整える側面支援を行っている。

例えば、NPO法人かわね来風のグリーン・ツーリズム推進によって、高齢者が農家民宿や三ツ星村を拠点として、来訪者に対するおもてなしの提供を行っており、この取組により、来訪者が川根本町で得た体験や思い出が、次に川根本町産品と出会ったときの購入動機を醸成している。



写真1 農家民宿「天空の宿」

#### (2) 売れるから作れる「川根農産物直送便」

川根本町は、JAおおいがわ管内の中でも北部に位置している。JAおおいがわは、ファーマーズマーケット「まんさいかん」4店舗を運営しているが、各店舗とも近隣市町の都市部に位置し、川根本町からは35km以上離れており、まんさいかんで販売しようとしても、農産物の運搬に長時間を要するため町内の農業者が利用することが困難であった。そこで、NPO



写真2 川根農産物直送便

法人かわね来風が牽引役となって「川根清涼野菜出荷協議会」を立ち上げ、行政の支援制度を活用して事業を実施、地域農産物を集荷し、ファーマーズマーケットに届ける「川根農産物直送便」の仕組みづくりを行うと同時に「川根やまそだち」のロゴづくりなどによるブランディングを進め、山

間地の条件を生かし平坦地と異なる時期に出荷できることや、昼夜の気温差による高品質な野菜を生産できることを強調して川根の農産物の認知度を高める取組みを行っている。

また、農産物を運ぶだけでなく、運搬者が直売施設の状況や消費者の動向に関する情報を町に持ち帰ることで、町内農業者が売れ筋品目の生産を増やす等、マーケティング機関としての機能も果たしている。

この取組みによって、ファーマーズマーケットで求められる農産物の生産が可能となり、作付け増加を目指す農業者が増えるといった効果が得られている。

### (3) 女性が活躍する、町内農産物を活用した商品開発・製造

平成 25 年、NPO 法人かわね来風は、大井川鐵道下泉駅の近くに「食と遊びの三ツ星村」を開設している。ここでは、野菜の直売をはじめ、手作り弁当、お菓子・梅干等の加工品、手芸作品や地域の特産品の販売、飲食の提供を行っている。これは、今まで販売の経験が無い住民が加工品を作ってみる、販売を試みる、接客を試みるといった小さな挑戦をする場を創出している。



写真3 食と遊びの三ツ星村

また、川根本町では、主業である茶業で邪魔になる在来のこんにゃく芋が茶園から掘り出され、これを農村女性が有効活用して食していたのがこんにゃくづくりの由来である。現在、この在来芋 100 パーセントの「こんにゃく様」が三ツ星村の人気商品となっている。更に、茶業の低迷に伴い農業者が新たな特産品としてゆず栽培の拡大に取り組み、生産量は県内 1 位のゆず産地となっている。その品質は高く評価され、平成 26 年度には静岡県が認定する「ふじのくに食セレクション」に認定されている。NPO 法人かわね来風は、このゆずの生産者団体である「ふじのくに川根本町ゆず協同組合」と連携して、ゆずポン酢・ゆず味噌などの PR イベントに参加するとともに、ゆずピールキャンディ・ゆず羊羹といった加工品の商品開発を行い、三ツ星村やまんさいかん等で販売することにより、新しい特産品であるゆずの知名度向上と活用場面拡大に寄与している。

このように、食と遊びの三ツ星村はチャレンジの場であるとともに商品づくりや店舗運営で女性達が活躍し、雇用の場にもなっている。

同時に、観光客が地域住民とふれあい、また観光客が地域情報を知るための拠点となっている。小さな挑戦の内容は人によって様々であるが、住民のおもてなし精神を育み、住民の出来ることをして喜んでもらうという小さな成功体験が、ここに住み、交流することでの幸せを得ることの出発点となっている。

### 3. 生活・環境整備面における特徴

#### (1) ママ宅プロジェクトと放課後児童クラブ

少子高齢化の著しい川根本町において、高齢者と子育て世代が交流し、各世代がともに暮らしやすい環境を作る取組みとして、静岡県「新しい公共の場づくりのためのモデル事業」を活用して立ち上げた事業が「ママ宅プロジェクト」である。高齢者が山間の集落に点在しているため孤立しがちな状況である一方、幼い子育て世代の母親たちは子連れで出かけるような場所も無く社会から取り残されたような気がするとの悩みを抱えていた。

そこで双方の悩みを解決するため、幼い子供を持つ女性が子連れで高齢者への家へお弁当宅配を行い、短時間でも気楽な交流機会を生み出す、というアイデア

を独自にシステム化したのが「ママ宅」である。配達を行う女性達は、幼児を連れていながら雇用される形で収入を得ることができる。その上、お弁当の配達に限らず、高齢者の日用品の買い物代行をしたり、高齢者から野菜のおすそ分けをもらったりという交流が生まれ、子供の声を聞いた高齢者側も日々楽しみが生まれるという両世代に有益な場となっている。現在では、約40人の高齢者に約10人の子育て中の若い女性がお弁当を配達している。この取組みは全国に例のない、高齢化社会の公共的課題解決モデルとして注目されている。

さらに、ママ宅の女性たちが次のステップとして安心して働きに出



写真4 ママ宅プロジェクト

ることができるように、平成 28 年度からは放課後児童クラブの運営を町から受託している。

## (2) 多世代の健康づくり「かわねライフスポーツクラブ」

平成 24 年度からは、総合型地域スポーツクラブ「かわねライフスポーツクラブ」の運営を行っている。川根本町の住民の健康促進を図り、また参加する住民同士の交流促進を目的とし、7 種類のスポーツ教室と 3 種類のサークル活動を実施している。

高齢者対象の「元気アップ体操教室」や「ソフトヨガ教室」、就学前の幼児やその親を対象にした「親子運動遊び教室」、小中学生を対象にした「陸上教室」、青年層一般男女を対象とした「ファミリーバドミントン」「バスケットボール」「フットサル」のサークル活動支援といったメニューを整えることで、どの世代の住民もスポーツを通して健康づくりができるよう工夫しており、約 140 人が会員として同クラブを利用している。

また、スポーツ教室で行う「ノルディックウォーク」と農家民宿を絡めた交流イベントなど、スポーツへの取組みはグリーン・ツーリズムにも生かされている。

## (3) 高齢者が畑仕事等を続ける環境づくり「ちょいサポ」

平成 28 年度からは、単身高齢者等の家庭の日常作業や菜園管理などを一緒に手伝う有償ボランティア事業「ちょいサポ」を提案し、町から受託して実施している。これは、高齢者一人では大変な日常作業や畑仕事などを、ボランティアと一緒にやることで、高齢者の出来なかった作業を可能にしている。これまで約 32 人、62 件が同事業を利用し、こもりがちであった単身高齢者が、人と話をしながら活動する中で活動意欲が高まり、気力体力が増進し、場合によっては手伝う側に回ることも出来るようになるなどの効果が現れ、住民に好評を得ているとともに、「農業を中心に人との交流を楽しみ幸せに暮らす村」を出来るだけ長く続けられる仕組みとなっている。